

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコト豊田市元城町2丁目	階数	地上20階
建設地	愛知県豊田市元城町2丁目7番	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	296 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2023年12月18日
敷地面積	1,340 m <sup>2</sup>	作成者	柴田 紀行
建築面積	419 m <sup>2</sup>	確認日	2023年12月19日
延床面積	6,179 m <sup>2</sup>	確認者	成瀬 徳行



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%
②建築物の取組み	46	57%
③上記+②以外の	92	57%
④上記+	138	57%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.2**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>17.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	17.5 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	17.5 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)リコット豊田市元城町2丁目

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.6</b>	
<b>1 音環境</b>									<b>3.3</b>	
1.1 室内騒音レベル									0.1	
1.2 遮音									3.0	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
2 温熱環境									0.3	
2.1 室温制御									1.0	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									0.2	
3.1 昼光利用									0.3	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									0.3	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気環境									0.2	
4.1 発生源対策									0.6	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									0.4	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO <sub>2</sub> の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.5</b>	
<b>1 機能性</b>									<b>4.0</b>	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 パリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									3.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.2</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	
1 躯体材料の耐用年数									5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.2	0.29	3.1	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.2	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高は2.9m以上確保	-	-	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.2	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性	② 性能評価 維持管理対策等級2を取得予定	-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.20	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.13	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.13	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.27	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.27	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		住宅性能評価 断熱等性能等級4を取得予定	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.93	3.0	3.7	0.33	-	-	-	3.7
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		キッチン水栓:節湯B+C1 便器:大4.8L 小3.6L	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② -	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自 -	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自 配管・配線が躯体及び仕上げ材に打ち込まれていない	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		3.0	-	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率57%	-	4.7	0.33	-	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自 適切な駐車スペースの確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)リコト豊田市元城町二丁目

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:17.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコト豊田市元城町二丁目

計画上の配慮事項	
総合	外装にはグレーや白、ベージュを採用し、周辺環境に配慮。 断熱性能及び熱負荷抑制に配慮し、省エネ性が高まるよう計画。
Q1 室内環境	隣地境界からの距離を離し、採光・通風を確保して居住性を高めるように配慮。
Q2 サービス性能	CATVやインターネットの集合一括サービスによる情報通信設備の充実。 また、管理室を設け建物の維持管理に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯カメラの設置、遠隔監視システム、オートロックシステム、侵入防止格子等により防犯性に配慮。
LR1 エネルギー	外壁の断熱性を高め、共用部の照明はLEDを採用するなど消費エネルギーの低減に配慮。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含む材料を極力使用しないようにし、 各接着剤料は化学物質の排出がないものを使用。
LR3 敷地外環境	騒音等 法令を遵守し、地域環境に悪影響を与えないように配慮。
その他	